

予報期間 9月24日から9月30日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 熱帯低気圧については最新の台風予報を参照。
- 26日から27日にかけて、高気圧が千島の東へ移動し、前線が華中から東日本、西日本付近にのびる。
- 28日から29日にかけて、低気圧が日本海北部からオホーツク海に進む。前線が東日本、西日本付近を通過する。
- 30日は、低気圧がアムール川下流付近に進む。前線が北日本、東日本、西日本付近にのびる。

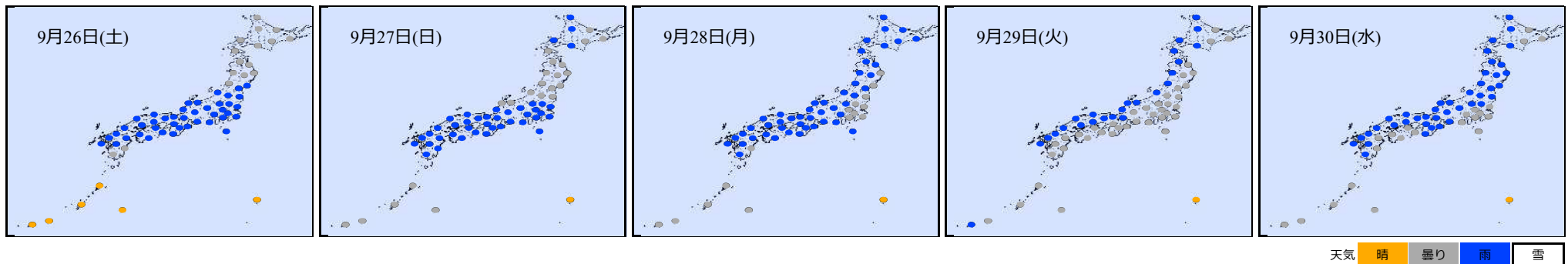
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

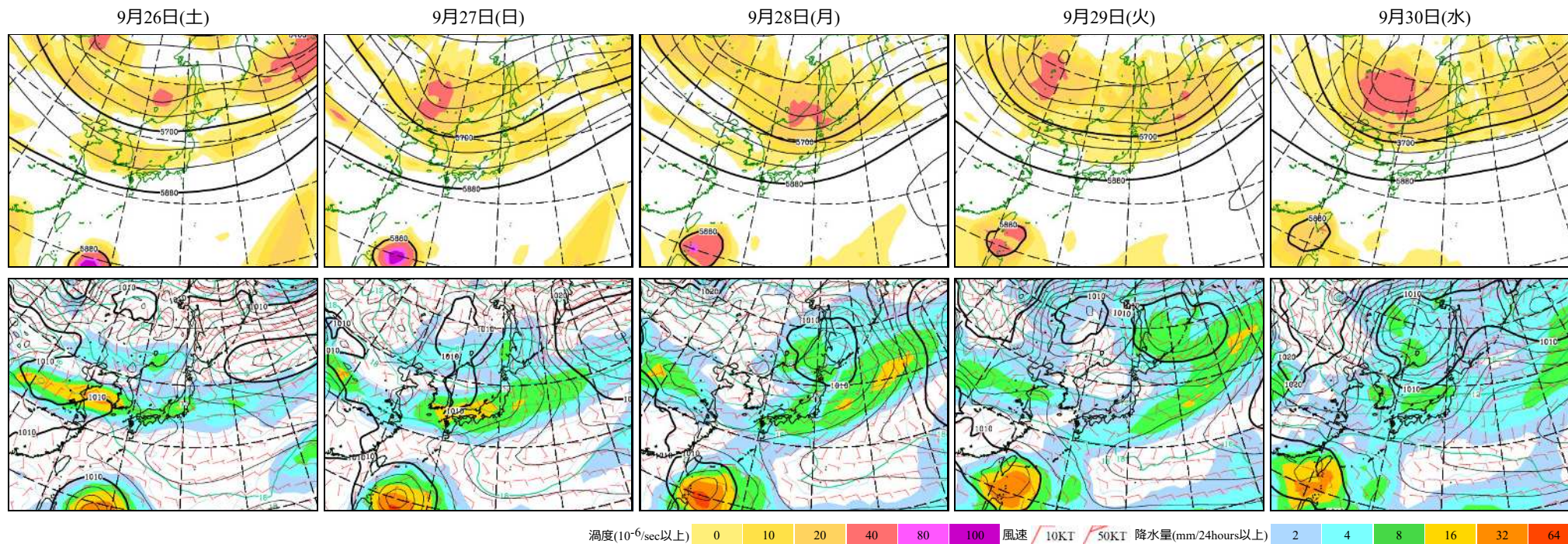
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

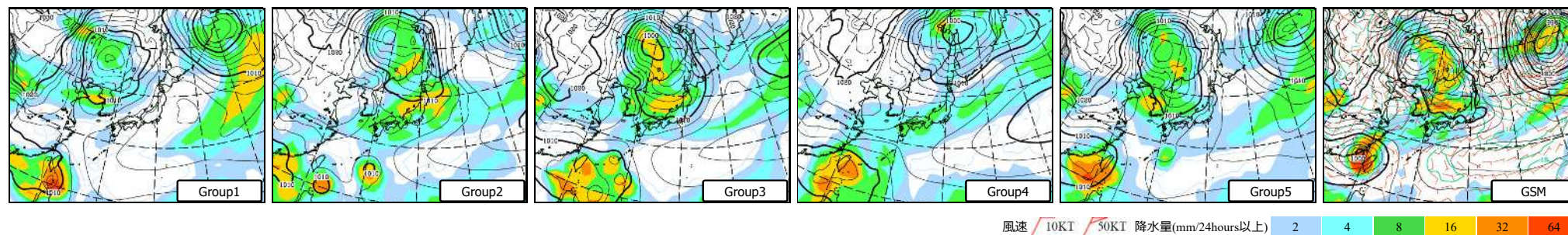


- 北日本、東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、26日は晴れる所が多い。その後は雲が広がりやすく、29日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月30日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日から30日にかけてバイカル湖の東および沿海州から千島の東へ進むトラフが深まり、早まった。30日にかけて中国東北区に進むトラフが深まった。地上は、26日から27日にかけて千島の東に移動する高気圧および北日本付近への張り出しは弱まり、日本の南への張り出しは強まった。
- 海外モデルは、30日にサハリンからアムール川下流付近で低気圧が発達する予測。ENSにもそのようなメンバーはある。
- スプレッドは27日までは0.5未満だがその後は0.6を超える。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。